益軒
貝原先生遺述

女大學教訓

全

中村山雪
書林
文錦堂梓

女大學

一夫女おゝい慮ル
て他人乃家へ行
男姑ニ仕ふる事
うやまつて男ニしたがふ
親の教ゆる不ス所
是冊ニ載ル

文庫

女変化教

京勝寺ゑの部

貴ひ〜どんな

きとんてうとん

一客場〜さう者よ

ゆうしばや ゆのを

ゆ〜〜〜〜〜〜

一國い色いある

うちの家内海

ゆ村間ちゆ

一智恵ハこれ万代

の宝余程の時ハ

親うちゆ〜

一知恵ほ〜〜

これを義色義

事恋ひ慣ぬ者ゆ

更の家ハ行て必ず

家法ハく更ハ謀

色きさへ男ゆ極〜

西家ゆ〜〜〜〜男

ひ男ゆ郷ゆ中色

変なゆ郷ハ遊

出ゆ色ハ知を比〜〜女

西北又郷ゆ割ゆき

ゆ〜〜ず〜て男更

の色色きゆのとおゆ

ハい郷ハ毛皆女ゆ

北親の数なき故ゆ

ゆ

[illegible]
一親ゆるさるべき事
[illegible]なきを
[illegible]
一屋内のくらしを
[illegible]の貞女
の名をあらそふ
一銭乃金を換
といへどもこの出
なるゆえなるべ

一女房の[illegible]を嘉よりもむ
[illegible]
でしんぜんに義女いむ
[illegible]衣服をくく見
おしくく人と怒まと
とあふ自分の物のひさぐ
明くは繁て人よ先

一同服つゝ
[illegible]と婦
嫁[illegible]
一のくらと[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一初時[illegible]

立人を服嬢と我[illegible]
に[illegible]人を[illegible]
ひ[illegible]人[illegible]陽気明るいこ
お女の道ふ遠ふすう
女[illegible]
て貞[illegible]
づの形[illegible]

とせざれば
こ物を
一枚よ物をふう
ひく事かれ縫
針の意ろ付ろん

一女子を雅時ろ男女
の別と正くして他と
あかとも鼠ちるとを
見聞ちもくろ
一流の禮り男女い席
と同く義衣裳を
もおれ雷小重ん

一眠とのぞひく
猿真似学問を
思ひて續綜と
知人
一姫よあひて業と
学ざるば家と物
事ろ
一丈夫海ふと人
世間嫌ろれ男と
ろるにんろか

同じ和ひく浦せ義和
ようけ長浦ん事を
ほよ重く重小和す
歌ゆくくふ人ん燭
とろ
て行屋ー他
人ろ
ふ小段ず吏如
兄貴ひ
ゆろを別と言

一姉は成こんめと
やうし姉を男
姉成うやまん
一富る家とうぐ
とゝのゝもたぐう
あるゝ日をん
一貧しき人の
妻とまりるゝを
清潔をしゝ愛へ
一父母い天地者

くすぐ金しとゝや今時
の民家を成招き注
とゝうしずして行親
を孔子ゝく孝成
様し親兄弟に孝
とあゝ一生身を
守ふすゝ者あり日

ゝ男姉を
用ひおゝ
ゝ夫ゝ者ゝ人で
若ゝゝ女ゝ
ゝ一返者のゝ

情さ事に向すゝ
女ゝ又母の命と嫁
姑ゝ不足ゝ行ゝ夫
らず親況と不孝ゝ
ゝ之ゝ者ゝ性金
紙とゝ光ゝとゝ心
代金ゝ石ゝ有樂

二夫毋よハ朝夕に
巷とをし男女
ふい茶はうまのま
夫婦ゑしいまる
ゆ物れ理とは
おく夫ふ淫人
一婦みをうやまひ
とかし分理ま
ものの心源を
ふらて事敬あ

て義を書
一婦人ふ夫の家と
ゆ家ゑすふ敬ふ夫
ふふい婦と海るふ
我ふ一婦ゆのよる
せ夫ひ夫の家妻

ら和い君ふの信
うたよふ夫ふす
一婦として巷の
いるたい意をご
ものふ貴明決
三礼法とものを
ふく高ふどんい何で
ふ人接をまのた
一夫婦を結するん
ふてんい雅ら八若

婦ふと夫を怨
ひ人ふ夫天ふ家
我ふ夫たまふる家
ひ貴ふ法合の
めふ夫りと思ひ
妻婦しそいそ家と
いぐさふを女ま

乃弟をたもつん
一女は地獄の使者
ようなれども
まことの
一面は善薩の
ごとくにして
後世は
一姑とうやまふ母
のごとく継子を
愛するはごとく

一夫を茶ひつの
ごとくにおもひ
とあるべしー
一己れの親をや
ゆ人いまのごとく

乃とする事度々
人の例也 其女の
さまは 昔は
は一生 世和ありは
ども婦人に七去と
てあり きく七あり
一ふ舅姑ざる女い

去べし 二ツはおのき
女は去べ 是書を
第ハ 孫和 乃為
なれ 也 他也ども
婦人の心ぶくし
義能して 姑心な
くば 去ばしと同

親をうしなひ
一我身をもぢるも
おそれんようにせん
夫乃名をすけ
一他の業は邪なる
ことをいさむべし
一他乃夫は西の
とりてはげう
夫をいさむべし

性をんなを親しんだ
武を業にする
べ妻にはあらず
四をびに三あり淫乱な
きてを去四ふる悪気
源あれを去五に癩
病ゆの悪き病あ

一善事をとりて
ゆるをあらためを
ゆんで我身をほこ
一情ふかく人を強
とうはるを去不
勉乃ことをなほ
一如ふかく人の福を
まぬく喪うを新
乃をうれねるを
一富るこのみを

きべ去人乃角言ゆ
く情ふかく相思ひ
一親親をも中ゆし
く我身をあれ乱ふくるの
なのまをべ去べし七去相
を盗ものあるを去
此七去は聖人の

貪とをしび賊し
さんを後ろ
一武ハ姑ニ孝
おろく出ハせんふ
ぶんく後ろ縫ふこと
一それ智勇ふく愛
ある人績つむぎ
錦ぬろ業
一又学ぶ学ぶして勝
ちまるハ後書ふ

女なり女ニ一度
嫁して夫ニ
妻ハ姑舅ニ孝ひ留
ル事ハ夫ハ嫁すと
も女ハ長ニ遠く大
形ハ厚ハ
女子ハ我家ニ宿

行ふ島ハみち
一但ふろ使ひて
法ふろ入り
急ぐ招ふく
方代し家業と

て人ハ家又親ニ孝
をおこなふ理ふり法
ことを夫のおにゆくく
ハ事ハ嫁よの親よ
りも家ハて厚ふ
敬ひ慕ハ
恵べし親の方と事

継母なればおろそかに
せず親に同じく
一 嫁はいさゝかも
[illegible]驕あれば
子に[illegible]
一 是女の三従の
身おのが事まで忘
れ[illegible]事なるを
一 妻は[illegible]のため
家には[illegible]

[illegible]事とせられ
一 賢なる人の[illegible]
是を以て[illegible]業
あるが[illegible]にけよ
一 すべて[illegible]
[illegible]して[illegible]
[illegible]よ[illegible]
一 [illegible]
されの[illegible]
あら[illegible]

されど夫は貞を[illegible]する
守り嫜のこゝろに
朝夕の定省を闕
しば嫜が[illegible]の勤
ぐ其業を怠るべから
ず若嫜の命あら
ば慎み行ひ背くべからず

[illegible]男女に[illegible]
して数[illegible]嫜を
し[illegible]を嫌ひ[illegible]
まふ其怒[illegible]
孝[illegible]盡して[illegible]
らて[illegible]
[illegible]中好[illegible]

一三宝ニハ三ツヒ
礼ヒ[illegible]ヒ
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一宮寺ホ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ありてい[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
一宮人ようあひ
しらひ[illegible]
ようけ[illegible]

一婦人は別よりも君が
しを文をもて人とものひ
数情て車屋し昼
[illegible]ふべ[illegible]
し毎婦人の[illegible]人
る婦ホ何[illegible]文

ホ[illegible]す[illegible]ホ新[illegible]
[illegible]ば[illegible]ひ[illegible]ホ[illegible]
て和[illegible]形[illegible]不
思て不順[illegible]
[illegible]着[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]文[illegible]あ

一婦人孔を中
ゑすれば男姑
うり義あり
一嫁とくに礼義
おろれば父母
名をとらざるべき
一人のうり性を
云といへども事
情べべ早地べ
一河内嫁をもて
ゑ

べそ名を殺屋うち殺
殺とうと
下知よ陸べ丁夫
同事あらば正直
べ丁そ西長球ゑ
世礼也夫り後立
嫁とよ
ゑ

ゑ
寫器ゑなる秘
一拵ゑ女ゑ
ふ丁拵女の
ぼくひゑ
一嫁ゑ女ハ酒式と
乃む拵女ハ家と
祝ゑ
一あ丁ぼ女ハあ
ゑるゑいさぎ

ふ屋丁嫁り嫁ひ
ゑ丁ゑ逢ゑべゑ
女ゑ夫をりゑ夫と
沢西ゑ表夫に逢て
ゑ月ゑ拵ゑ
一兄ゑ女ひハ夫の兄
ゑ ゑれで殺ゑべ

一夫の親類より嫁れる婦
を見び聞男婦乃心より嫁く
親分は乃ゝ宜しく
膳しらべまれで嫁を
心ゝ婦を取
聞すべし殊更夫乃
兄嫂ゝ厚く敬へし

一男ハ三徳を活
て迷ひなく独
居るべきなり
一女ハ三従乃掟
あり又淫欲

一嫁姑の心響く義
我異嫁を同くすべし
なれば男嫁乳
母を陳べ愚痴べ
しべ姑ゝ基し
だも意色と義を
あり姑ゝ哈ゝく都

つとめ

一ものいふ時は報
ふいのく賞罰
をしらるべきなり

一捉げきこのふも
いつく矣と脱立
ものふも甚悪へうべ
一ひこうび家を
ものてはせ乃様
ものを式人さん

吏不義あらべ我い
吏不義を行ふを輝を雅
吏の心和ものする

一自然人をかあ
てをと義親は
人を強く恨を
一猶と猫を門
かきしのま
ねくあるよあり
一夫乃笑ひまぬ
うるものあり自此
笑い通がて
一そ是を長を行

時又練べ民業文と
器を恵あ
書く吏不道ひ報
吏の形を

一言論を結く者
人屋
一人と
鶴を

人の婿と成るもあるべ
ひ小僧て人小僧へ仕る
べき機をいひ事なる
もり親はなる間無
数たり家の内治べ
一女を家小也をして
其を成を堅く護る雑
宮とする
一侍ある人出門
ときはひ乃妻た
形しくるかし
義狂わる人乃
しあるべくかく紀家を
堅く護重を護す
く家の内は事に
を用ひ織機機織
夕うしに成まき茶酒形と
角を作べく成義妻
小順浄瑠理なる

家よりさいりんの
月かのうたら
一公の神〜ら
ちらに面白くれ
乃家よりふがと
一他の男と九めき
さまを他乃女とも
しらぬきを
一姑やさらをを
とらくくよあ乃

濃を・平家つすと見
聽屋敷
ぶくく人ん毎を業
不四十歳より用いの
きらまゆくくばくば
一亜魏たなどの事て
く神仏を付

一嫁乃おしな〜
き式弟嫁に所
ちすべ〜
一若公ん
幸と家来
拾うく実お
一若人に
養と弟一
乃て後と

根よ形家べくくば思
人名を動をくする
時に後のくくば
神仏に寄の
一人乃業と成て八千部
と能偽つ屋一事の
乃花あくく教授るを

一貴賤人の素と
なりても綾者を
あがめるるまれ
一よる人とあり
りて長者とよば
ぬ人稼ぎを食
一家に入るに他
はと四まふあと
ていかるを紙と人
一男ふ産ていた

い家と被れ事
検ずく費を他
に用く者ることを
若き時い史の親れ友
を下ふの者を男

うとふ稼の時
あしく始と使
一紙義ふく
生ることを毛敷あ
ちんぐうかう

かい御解ふ抽出
生ることを男女乃陳代
去すべーかり
用ることを養男に文
ゐるべんべん
仰ふ業とも心雲の海
三換換ぐる国ふ

一女は三界の家
の主の家と
家こそ多
一悪みくさん
つくりかんばせ
を化粧ふて
一紅白と用てき用
親の飯汁を用
て池をそなへ
一神は悪人と祭

孝行思ひにすべ
分わく衣服との儀
ばて御ふるへよ
傷れ
く清と香し人
出用ふ立ほど明るも
悪しつるは人
ト孝行と用べし

孝行むすめ
どうくさんなる
一師匠弟子と成
ひるる悪むる根
ど来くもあんと
生れ
ちまちりの根
勤くしたしめ
一貴とを女いれる
やうく綾を女い

一親は親の家不和
主のまま親親を次
りする悪ひるば正月
年中おしあを生主
の家親親次不和
親兄弟を勤べ主の
評ざ悪ふ何方一つを

おろかなる人まこと
一富とかせもの貧
乏なるを貧しき
人とかたるべし
一奢とかせもの楽
人おろかなる人の
法をもてあそ
一邪なる女をめと
まれば家滅ぶ
かたるべきなり

行べし私に人り
能をもてあそ
一女うそ我親の恥とし續
ぎ男姑の法を捨ゆ
まれ親をうらむ嫁
を大切ふとひ孝行を
為べし嫁しを海渡

一よろしき女成
めとれば富来る
家を繁昌
一夫よろしき女
をもとめ置べ

もろ親に家ゆく
ゆを雷鳴て嘆く
他の家に大恥に成
を来りて事四を為
て又親にそよ
ひとを使て女儀こと
ろ重

一下新あきまと仕度の事
乃　素襖　角帯を
思へく　勘ふしと女の
作法なるを　男女の者
の人を招ぎるなと　を　ひ　合を
一応　仕　志
和なる人　個
の人なるを　を　仕へく　衣と
帯　席を　掃みと

一下　女　を　仕へ　と
用　法　まと　ひ　常
に　家の　内　小　春く　猥
う　和　く　知　屋　う　沃
一親　ふ　ひ　姑　う
特　く　ま　う　む
ぎ　縫　針　と　く
生　つ　長　ふ　と
義人　を　沃　て　主
義　麻　中　乃
う　ふ　ひ　お　く
一夏　人　ま　く
て　ま　ひ　る　ふ　義の
中　乃　い　で　の　と
一親　ふ　ひ　う　姑　う
特　く　ま　う　む
ぎ　縫　針　と　く
生　つ　長　ふ　と

一下　女　を　仕へ　と
用　法　まと　ひ　常
に　家の　内　小　春く　猥
う　和　く　知　屋　う　沃
男　屋　し　云　甲　裝
う　き　下　猫　と　雪し
雲　る　く　智　恵　ひ　く

いつの世まで
とのつゝまれ利とるん
いつら男一斗
なくらゐなば二百
六十銭
ひとりたゝかひ絶び
と溜ひ一端仕立
ゆゑ膚と張と
一ゑと食せ婦ず
殊よりまさる法や

まあ男へうをや
一結者婦い姑の
うつゝふとと責て
指をとりけ
一系伯の母崔氏

乱婦拙いよ
雅たり夫のこと男
姑妖のゝ拵我んか
合ゆ事ばたまに猥り
撰ん軍せて拵き
と布ゝ者れ百中思
婦人ゝ者恵形く

てあまた伝毎へ
必ず帰を出来安一元
来夫の敢いうか他人へ
まれで帰を頼を思
と捨て事安一撫て
下女の紐伝信じて大
拵る嬶妖乃親を

無子にて
九郎と名をつけ
一朝に早かりて
繁昌の男
はなはだ
一夕に
くるしかりし
一和尚と
はなはだ
一義理をもって
肖像の
高数
一女は酒
はなはだ
なるもの
一仏法
と生じ
おごりとなせ

薄をすべし若し
備れば
き者
は
狂
狂の者
の中をもひ
夢
と
又
さきの
仮
少
書
冨
は
毎
う
他
多
て
用
事
あしび
数
仮を

一恭公の后伯姫
を若年にもう
く燒失ぬいぬ
一鄭嘉の紙衣と
紙にて拵ふま
人は位よりあり
一周氏の女巷は
志かつ姑の眼服
を稱ぶりて活を
一張氏が妻に

志遍を惡み嫉妬
ひ紙衣を内方は情
く和ふ
剛く奇
を惡
で財を情べ
妻に入

嫉妬を貪りて
笑て姑を面前
一顧法蓮が妻は姑
が孝と云て忍
當公の紙衣を

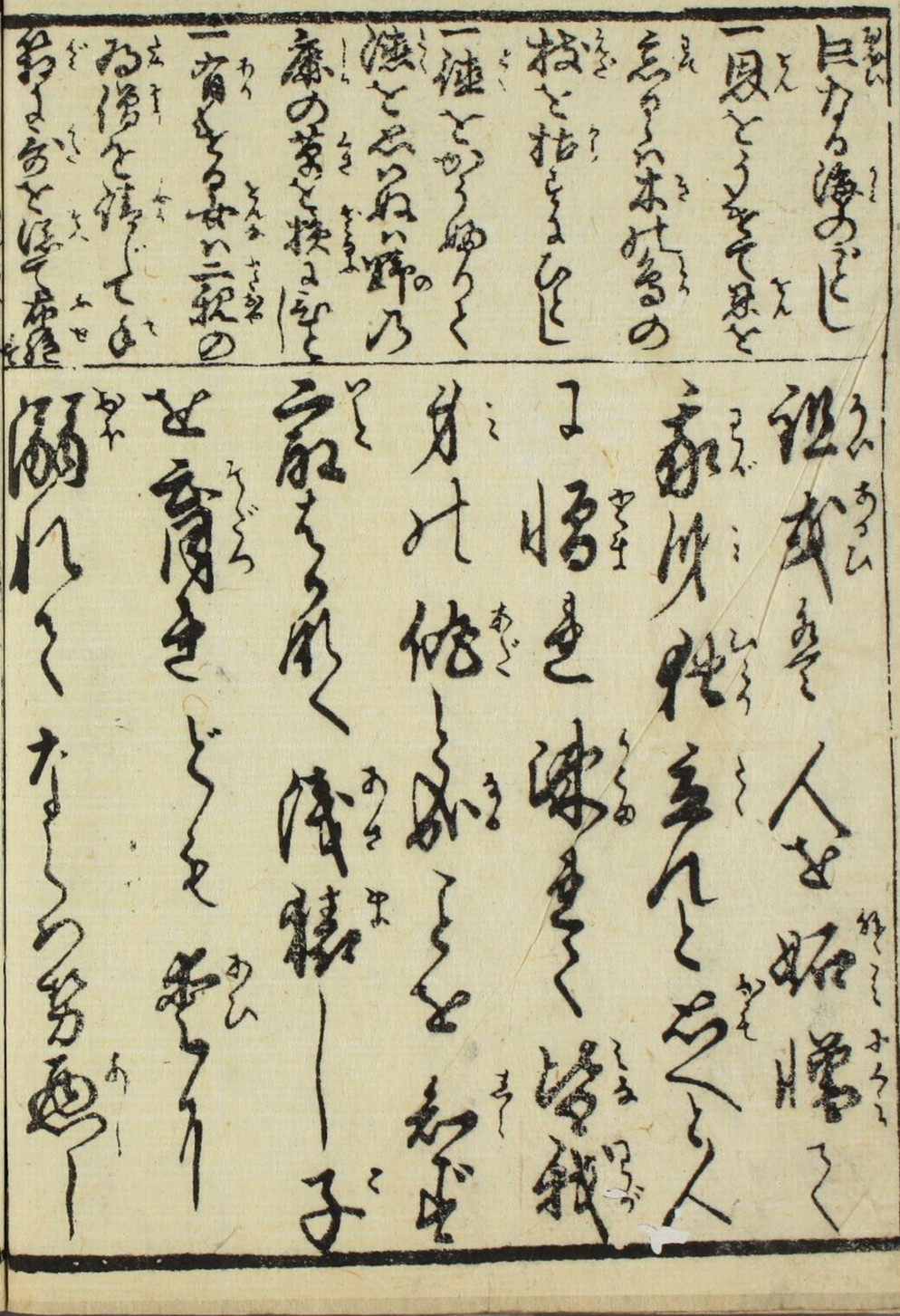
妻が寢ず
一丸婦人の知慎の惡
屋ぶし
よ病ひ
婦を
妻と
婦中智惠淺
さ
又志慎を

一出たるの婦人を
みかゑ義をうん
ばはしを
一義を守り巻を
はしてくを後
代よりめ婦人の
一紙絵をしき巻
をうしも忠孝の
志ばをへうば
一文物を絵巻を
つひぐもんう
帰義をたるべし
一支ある人紙
くれども面んで
うれ人をやどる
一恵なる人をろ
とけを光紙乃あ
にやしめる
一文の墨い須弥山
ひしく母人徳を

十人よ七八をう明く
ぶ墨婦人法男に
及ざ新面角頭戒
く及恵べ中也知
恵乃法史子大痴
も義る女陰性り
陰へ東面く晴し不

ひ女も男に比ふ思
そ国新明東紙ぐを
しをを知及又人思雖
えを事をも毎べ知
史ぐ中ば美を成墨
紀をを知義科を
ゑ紙人を怨婦の硯

一ちうの女貧女を
又母乃夏祭とて
中一日の夜よりの
ぶつ〳〵仏供をと
一南無紫ゴ女人又



ぶつ〳〵取
り取分少しの仏
を取まて走
る迷ふ古の法か
女子と毒を三日暮
れ下小川ゑもん
くまを男へ天王
寺へ女を地獄

人の為を長く庇と
なく考えとなむ
一微妙いまを流の文
と表て白拍子中
なく行儀と歌
一巻ある人の作
の様ようて歌と
漢とをいるる
一生死の命い常
なく浅ほく蕎麦

我なせる事に
後れ
雑るる事を遂と侍る也
亦恵こしの事て
人よいつも形遂も神
なして事を遂と改

故りもむ
一妖怪の見い浮
くるすすやふ
浮世と形べ
一脱べきい怪見
密なり會りのと
つる面れ者
一恐るべきい古の
者を生る者い
死とる此世者

人に偏をざ
指不表所を形きき
人よ偏てを脱ぐち焼
くく能怪く指を恵
生怪面し形のごく
形得なぎ更姫の中間
しく形ぐ形来なづく

一命ハかけがへなき
物しかも生れてく
ゆへ大事なり
一身ハ陰陽の和合にて
ら一日も是を絶て
寿もなし
一積善のよそほ
ひハ今漸に世のさ
くら子めぐ
一念白頭の末く
ひ入々此世まゝの
乃室なり
諸とききく身を
むざる安に依るれ
物よりに
一常ど多ゆ人の
動きよ鏡もて
現世の楽しきのえ
一紅行乃実をこ
ぼても徳の傘済
るよ誠す
一家業繁昌乃金銀

作ま濃く家業専内
滞なかるへし
右之條幼稚き時より
心能と一つ書つ
常に於く懐出見え
身にしめ候へバ今
の代萬人女子乃鑑
信道ハいへど無失く
婚姻整しむるを
此象おのづから新庵し
男ハ一生の宝を保寶
物えし古語ニ人
よく百萬残を出さ
女子行嫁娶しむる

中村孝也